



ガナドールマフラーは、トルク&パワーアップのチューニングパーツでもある。

することにしているのだが、外すのがタイヘン。錆でホルトナットが元の形を成しておらず、工具がうまく使えない。しかもひどく固着しているから回そうと思っても回らない。そこで部分的に電動力タターで切断したり、タガネで叩いたりしてようやく外し、交換が終了。触媒から後のマフラーを3か所で吊っているブラケットのインシュレーターゴムは、だいぶヘタって



錆がひどく進行したマフラーは外すのが大変。交換を怠けると思わぬトラブルを引き起こす可能性もある。



4WD Vertex SUS 右シングル・サークルテール

オールステンレスのガナドール。平成8年式の80GXにはこのGD-030を選んだ。パイプ系はノーマル比でだいぶ太くなったが、ヌケが良すぎてトルクダウンということがないばかりか、むしろしっかりアップする。最新型のモデルではPBSというガナドール独自の先進技術が投入され、燃費も改善。

いたので純正の新品に交換した。リアバンパーの右から顔をのぞかせていたサビサビのマフラーがピカピカになり、ボディは見事に若返った。



まだまだ生産中の旧車用ガナドール 形状もシングル or ダブルなど選べる

リプレイスと考えるといい旧車なら早めに交換したい。極度に錆ついたノーマルマフラーのおかげで交換作業が延び、80GXの美しい雄姿の写真を撮る時間がなくなったため、スタイリングをお見せ



4WD Vertex SUS 左右2本出し・サークルテール
尻の下にスペアタイヤを吊る背面タイヤレス仕様にもキチンと対応する左右出しのベシック。



4WD Vertex SUS 左右4本出し・サークルテール
ボディのボリューム感に負けない左右4本出しもラインナップに残っている人気アイテム。



4WD Vertex SUS 左右4本出し・スクエアテール
4本出しでテールがスクエア。シティ派のカスタムによくマッチする高級志向のスタイル。



できないのが残念。次号でインプレッションとともにキチンと披露するつもりです。それにしても、旧車を買ったらマフラー交換は早い方がいいかもしれない。ガナドールに交換するつもりがあるなら、クルマを手に入れたらすぐにでも交換するべきだろう。そうしないと、ノーマルマフラーの錆がどんどん進行して交換が困難になるばかりか、放っておくとブラケットが錆びて脱落...なんてことも起こりかねない。ガナドールに交換したら、長く楽しめるぞー

旧車も排気系チューニングで走りとスタイルをグレートアップ "ガナドール"を楽しむ GANADOR / マツ・ショウ

マツ・ショウ：048-935-1130 <http://www.ganador.co.jp>

80GXにもガナドール旧車用でもまだまだ生産中。ガナドールのスポーツマフラーは、今や押しも押されぬ新しいカスタムマフラーのトップブランド。オールステンレスの確かな素材、高い技術力による優れた機能、そして溶接部分など細部にまで至る美しい仕上げ。これだけの逸品だから新車を手に入れたらすぐに装着...というラ

4WDスポーツマフラー

スポーツマフラーと言えばガナドール。ネームバリューが高いため、ファンはクルマが新しいうちに装着するのが一般的だ。だが旧車を手に入れたら付けてもカッコいいのだ！ text / Y.Suzuki

ンクルやFJクルーザーのファンは多いはずだ。ところで、そんなユーザーの多くは、愛車を持ち替えるまでそのまま、というのが一般的だ。もちろん耐久性の高さは約束されているから、たとえクルマのボディが錆びてきても、ガナドールは新品のコンディションを維持。ステンレスがくすんでいてもちよっと磨けば新品同様の輝きが復活するはずだ。



上：バンパー端面の内側に入っているため、ディバーチャーアングルにもさほど影響がないのがいい。下：装着前のガナドール。2分割式で接合部のフランジやブラケットまでピカピカのステンレス製だ。



えるようになるはずだ。というわけで、今回は本誌80GXにガナドールを付けることにした。もともと付いていたノーマルマフラーは、機能さえしていたもののブラケットの一部がサビで欠落して補修されていたり、マウン

トがヘタっていた。装着したガナドールは、80ガソリン用の4WD Vertex SUSで、シングル出しサイ



80GXに選んだのはサークルテールのシングル出し。ナローボディのGXにちょうどいい。